

# LET THE KIDS PLAY

< 子供たちにプレーさせましょう / ジュニアテニスにおける親の役割 >

コリン・ブラウン博士

ロバートは、自分の両親も含めた数人の観客の前で、ジュニアのチーム戦でプレーしています。試合の終盤で、誰が見ても明らかにアウトだったボールのコールをしそびれてしまいました。彼がそのミスに気がついたのは、お父さんの方を見た時に、黙ってこんなにアウトだったという合図を送っていたのを見た時でした。そのミスが気になって、その後は集中ができずに試合を終えました。彼は、試合の勝ち負けにかかわらず、コートを出たらそのミスを指摘されるだろうと思いました。

お父さんの行動は些細な事に思えます。別に叫んでいたわけでもありませんし、スコアを正したり、相手の子供を避難したり、試合の邪魔をしようとも思っていませんでした。ジュニアに関わっているコーチならば、同じような場面で、よりひどい態度をとる親たちを見たことがあるでしょう。ロバートのお父さんは、果たして彼にひどい仕打ちをしたのでしょうか。ジュニアテニスにおける親の役割について考えてみたいと思います。

昔、あるカントリークラブで、私が7つのジュニアUSTAチームを指導してきた経験の中で、様々な親の関わり方を目の当たりにしてきました。子供のテニスにほとんど関心を持たずにほとんど試合を見ない親もいれば、すべての試合を見る親や、練習をずっと見る親もいました。子供の試合中に、大きな声を出したり動き回ったりする親もいました。子供によっては、親の存在が気になって仕方がないから、親に試合を見に来てほしくないという子供もいます。コーチとしては、親が子供のテニスに感心を持ってくれることを嬉しく思うと同時に、我々コーチも親たちも子供たちも、親はどのように関わるべきかを理解する必要があります。

この記事は、初めてジュニアテニスや皆さんのプログラムに係る親の皆さんへの資料としてご活用いただければと思います。

## ◎試合中は観客に徹すること◎

親の心情としては、自分の子供に苦しさを乗り越えて勝って欲しいと思うものです。そして、自分の子供も相手の子供も平等に扱いたいと思います。しかし、試合が自分の子供に優勢に動いている時は落ちついて観戦していますが、ひとたび形勢が不利になると、自分も試合に参加しなくなってくるのです。この関わり方は様々で、ロバートのお父さんのようなシンプルなものから、スコアを正したり、相手の子供を避難したりするような激しいものまであります。

ジュニアにとっての試合は、それ自体がストレスの多いことです。親が試合に入り込んでくるとは、子供にさらなるプレッシャーを与えることになり、勝つことに対するストレスがさらに高まります。ほとんどのジュニアリーグやトーナメントでは、親が試合に関与することは禁じていますが、コーチの皆さんからも、子供たちに与える悪影響を考えて、親は試合に入り込まないよう

にしっかりと伝えるべきです。子供たちが自分がプレーすることに集中できるようにすればよいのです。

親は自分たちはその場をまとめることができると思いがちですが、そうさせないようにしなければなりません。プレーヤー間の問題の解決は、コートやアシスタントや役員に任されるべきです。親が立ち入ってくると、相手の子供は大人に威圧されているように感じて、思ったことを話す勇気を出せないかもしれません。こうなると、他の試合を観ている大人たちをも巻き込むことにつながり、些細な問題がとんでもないことへと発展しかねません。

時として、試合中に彼らの母国語で子供に話しかける光景もみかけますが、これも、相手の親からコーチングをしているのではないかというあらぬ疑いをかけられることになりかねません。

### ◎責任感と自主性を教えよう◎

私が14才の時の試合で、自分の打ったボールが相手のコートに弾んでから戻ってきたことがありました。ルール上は自分のポイントになることを知らなかったので、相手にそのポイントを与えてしまいました。テニスは、他のジュニアチームスポーツと違って、一人か数名の役員ですべての試合を見なければなりません。プレーヤーは、ルールを勉強して、自分たちでラインコールやスコアリングをしなければなりません。ですから、ルールをよく理解していることが、いろいろな出来事から自分を守ることになります。しかし、子供が一度ですべてのルールを理解することは不可能です。熟知するには時間がかかります。そこで、試合のルールやマナーについては親が教えるようにしましょう。コーチも親も、子供たちに問題可決の方法を教えることが必要です。子供たちが、コート上での振る舞いやプレーに責任を持てるようになれば、親は試合に入り込むことなく、観戦することができるようになります。

### ◎相手とその周囲の人達を敬うこと◎

ジュニアの試合を楽しく意味のあるものにし続けるには、ホームゲームでは歓迎の気持ちを持ち、アウェーの時は礼儀正しくすることです。ホームコートでの試合の時には、良いスポーツマンであり礼儀正しいホストである評価を高めることです。しかし、良い噂は、もてなしが悪かったり、試合態度が悪かったりしたことの噂ほど早くは広まりませんが。アウェーでの試合では、兎にも角にも遅刻をしないことです。チーム全体はもちろん一人でも遅刻をすれば、多くの人達を待たせることとなり、一日のスケジュール全体に遅れを生じさせることになります。

### ◎応援はポジティブに必要最小限に◎

ジュニアリーグやトーナメントでは、親やファンの応援が許されていますが、あくまでポジティブなもので、コーチングに関わるようなものでないことが求められます。親は興奮のあまりに、自分の子供だけを応援しがちですが、そういった応援はたとえポジティブなものであっても、相手にどう響くかが気がかりなところ。多くの場合は、相手の子供や親の気分を害する事になります。ジュニアテニスの試合は、生死をかけた戦いではありません。たとえポジティブな応援であったとしても、個人的な応援は相手に素直に受け入れられるとは限りません。応援する時は、不必要な摩擦を起こさないように、必要最小限にとどめましょう。

### ◎試合をその日の良い思い出に◎

親が試合中にできることはほとんどありませんが、試合をその日の良い思い出にすることはできます。チームの引率スタッフとしてアウェーの試合に関わることは、子供にテニスを通じての自分の成長を望んでくれていると感じさせる良い機会であり、試合の日をチーム全体で盛り上げようという気持ちにさせます。また、試合の前日に、水やシューズやウェアや着替えやグリップテープなどのバッグの中身を一緒にチェックしたり、試合前の特別な食事や習慣的なことを行うことで、子供に試合に向けての良い準備の仕方について教えることにもなるでしょう。私個人としては、試合に勝った時のご褒美の約束などはしないほうが良いと思います。というのは、もし負けた時には、その辛さに拍車をかけることになるからです。だからといって、頑張っただけに勝った時に楽しい時を過ごす必要がないと言っているわけではありません。要は、勝敗にかかわらず、試合があった日を特別で楽しい物にするのは親の役目だということです。

### ◎子供たちにプレーさせましょう◎

プロを目指して、エリートに繋がる道に進めるプログラムにジュニアの数はごく僅かです。子供たちに生涯のスポーツとしてテニスをして欲しいと思うのであれば、テニスは運動であり、楽しいものであり、プレーするものであることを忘れないで欲しいと思います。もし、テニスが勉強のように、退屈で、精神的に疲れたり能力が試されるようなものであったとしたら、楽しくもなるともなくなってしまおうでしょう。親は、子供のテニスを通じての成長に、大きく大切な役割を担えるのです。どこでどんなコーチにつくかを選ぶ上での大きな力となりえますし、オンラインで対戦相手の情報を調べることもできますし、子供が練習や試合について行っているかどうかを確認したり、遠征の時にはチームの仲間を相乗りさせてあげたりして、リーダーシップを発揮することもできます。

しかし、試合の時に親がしてあげられることで最も大切なことは、子供たちにプレーをさせてあげることだと私は信じています。

【翻訳・監修】鈴木眞一